

地方小出版

# アクセス

情報誌

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 139円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## オンデマンド出版の活用で 「出版の多様性」の持続と 「品切れ重版未定」を死語に

文/デジタル・オンデマンド出版センター代表 浴野英生



『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』原画の1部



『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』ポーラ文化研究所

置される頁構成のため、小ロットが得意で、かつカラー頁を自由に配置できるデジタル印刷のオンデマンド出版をご提案しました。(写真参照)

DOD 出版センターの標準の表紙加工はグロス PP で、本文用紙は上質紙ですが、浮世絵の風合いを活かすためにマット PP とマットコート紙を採用しました。

昨年末初版 300 部を納品したところ、新年早々 200 部の増刷、更に 4 月に 100 部と小刻みに増刷がかかっています。流通は地方・小出版流通センター扱いで、その他銀座のポーラ化粧品店のショールームでも展示販売されているそうです。

地方・小出版流通センターのご担当者に伺ったところ、注文は図書館が一番多く、次いで客注が多いということです。これは、出版社が図書館流通センターへの事前案内と、エンドユーザーに向けた独自のプロモーションをされているからだと思います。

販売価格が 3,300 円 (本体) と少し高めな本ということもあり、一般書店への委託販売ではなく、図書館と直接読者へ向けた販売戦略を立てられたようです。それが、小刻みな増刷が可能なオンデマンド出版とうまくマッチングしているのだと思います。

### 在庫負担を軽減したい!

次にご紹介するのが、自宅マンションを仕事場にして活動されている出版社の例です。主に理工系専門書を出されているため、販売価格は 3,000 円代が中心です。流通は代行業者に委託されており、

### オンデマンド印刷の品質は目覚ましく向上している

20 年近く前に日本でも出版のオンデマンド印刷利用が始まりましたが、当時の品質や製造価格は、まだまだ日本の出版界の要望に応えられるレベルではありませんでした。

そのために、なかなか普及してこなかった出版のオンデマンド印刷利用ですが、デジタル印刷機の急速な進歩と小ロット出版への時代要請を背景に、ようやく出版の一つの形態として選択されるようになってきました。

本稿では、実際の事例をもとにオンデマンド出版の活用報告とその可能性をレ

ポートしたいと思います。

### 『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』ポーラ文化研究所

本書は、もともと DVD-BOOK として刊行されていたものを書籍化したものです。

仕様：A4 判、並製、200 頁 (1 色×96 頁、4 色×104 頁)

入稿：PDF データ

ご相談を受けたデジタル・オンデマンド (DOD) 出版センターでは、オフセットでの見積もりもいただきましたが、初版想定部数が 300 部という小ロットとカラー図版と墨 1 色の解説文が見開きに配

## その他の事例



販促用リーフレット



全集の新装版

主な販売書店は、紀伊國屋・ジュンク堂・アマゾンだそうです。

DOD 出版センターで制作させていただいている書籍のなかで、9カ月間で11刷合計450部という本があります。初版だけ100部で、後は50部と30部の小ロット増刷を重ねています。他の出版社にこの話をすると、最初からオフセットで500部から1,000部刷れば良いのにとおっしゃいます。しかしこの出版社は、倉庫に在庫を持つよりは、必要部数だけを制作し、流通業者に小刻みに補充することで、製作費よりも在庫の負担を軽減することの方を選ばれました。

「狭いマンションの部屋に在庫をうず高く積んでおくのね(笑)」だそうです。

また、カバーなどの付物在庫はあるが、本身が品切れになった本の小ロット重版をオンデマンドに切替えられた出版社もあります。これによって在庫が減少し、倉庫を2カ所から1カ所に減らすことができましたそうです。

もちろん、オフセットで500部1,000部重版するよりは原価率は高くなりますが、作りすぎの回避やキャッシュフローの改善を優先された判断です。何よりも、部数が見込めず重版出来ないまま品切れ(いわゆる品切れ重版未定)になってしまうことを避けたかったとのこと。

これまでの大量に刷った本が売完することを前提に原価計算などをする考えから、多少割高の小ロットでも出版の継

続に重きを置くという意識の変化が出版社に出てきているように思います。

## ハイブリッド印刷とは？

制作部数によって、オフセットとオンデマンド印刷を使いわける方法をDOD出版センターでは「ハイブリッド印刷」と称しています。その事例も一つご紹介いたします。

年度版の問題集を発行している出版社で、毎年確実な需要はあるけれど1,000冊は売れず、かつ年度が切替わる頃に限って、採用があるという問題集がありました。そのため、昨年は営業の見地から刊行を見合わせていたそうです。

そこで私たちがご提案したのが「ハイブリッド印刷」です。初版をオフセットで600部、同時にカバーを倍数の1,200枚制作しました。新刊配本後の増刷については、オンデマンド印刷で本身のみ制作し、初版時に印刷しておいたカバーを装着いたします。制作原価率も初版をオフセットで抑えることにより、原価の割高なオンデマンドで増刷しても合計1,000部以下であれば、原価率は30%以内に収まる計算です。

これは、オフセットとオンデマンド両方の設備がある印刷会社で、同じ紙を使って制作できるからこそ可能な印刷方法です。

大量部数を見込めなくても出版したい企画については、この「ハイブリッド印



大学教科書

刷」による出版も選択肢の一つかと考えます。

オンデマンド印刷による出版は、紙やインク、造本上の制約、また制作価格などの課題がまだあり、小ロット出版のバラ色の解決方法というわけではありません。ただ、出版の継続性や多様性を維持していくための選択肢として、現実的に検討できる時代になってきたかと思えます。

## デジタル・オンデマンド出版センターについて

最後にDOD出版センターのご紹介を少し。弊社は、印刷会社の欧文印刷と研文社、システム会社の光和コンピューターが出資して立ち上げた合弁会社です。2014年7月の東京国際ブックフェアで、初めて3社の協業によるスキームを発表し、テストマーケティングを重ねてきましたが、昨年11月に法人化し、本格的に事業を開始いたしました。主な特色を4つほど挙げておきます。

1、ロール式インクジェット印刷機とトナー印刷機の2種類のPOD出力の他、オフセット印刷機も使い分け、最適な印刷方式とコストの最小化を実現。

2、WEB受発注プラットフォームで見積もりから入稿・校正・発注・納品まで一括管理。遠方の出版社でも不便を感じることなくご利用いただけます。

3、カラー品質へのこだわり。2色・4色は折丁を考慮することなく、1頁ごとの頁単価計算で低コストを実現。

4、データのない書籍は高品質スキャンングで対応。貴重本は非断裁でもスキャンング可能。

詳しくは、ホームページをご覧ください。けると幸いです。

<http://www.dodpcenter.com/>

\*

(えきの ひでお / デジタル・オンデマンド出版センター代表)